

3億円マグロ漁師が木造中へマスク12,600枚を寄贈



(左から) 木村さん、藤枝さん、悦嗣さん、山谷校長、
暁椰さん

5月25日、大間のマグロ漁師・藤枝亮一さんが、木造中学校（山谷光寛校長）に不織布マスク12,600枚を寄贈しました。

藤枝さんは、2019年のマグロ初競りで3億3360万円の値をつけたマグロを釣り上げ話題となった漁師です。新型コロナウイルスの影響でマスク不足が続く中、独自のルートでマスクを調達。孫が通う学校でみんなに使ってもらおうと、30枚入り420箱を持参しました。贈られたマスクは全校生徒367人と教職員に一箱ずつ配られます。

孫の中野悦嗣さん・暁椰さん（ともに1年）は「自慢のおじいちゃんです」などと笑顔で話し、生徒会長の木村響さん（3年）は「マスクが足りないのを感じていたの、この量をいただくのは本当にありがたいです」と感謝していました。

大会成功へ一丸 国民スポーツ大会準備委員会設立発起人会

令和7年（2025年）に青森県で開催予定の「第80回国民スポーツ大会」において、つがる市では、令和5年に完成する（仮称）つがる市総合体育館を会場に、バレーボール（少年女子）と柔道の2競技が実施されます。

大会成功に向け、市では今年度内に大会準備委員会を発足させる予定ですが、5月28日、市長をはじめとする市内関係機関の代表6人が発起人となり大会準備委員会設立発起人会が旧制木造中学校講堂で開催されました。

会では、設立する準備委員会の運営や会則などについて協議され、発起人代表に選出された福島市長は「本発起人会の開催を広く市内外へPRし、市民一丸となって大会成功に向けて取り組んでいきたい」と意気込みを述べました。



第80回国民スポーツ大会のつがる市準備委員会の設立に向けた設立発起人会

暑さを乗り切れ 市内の小中学校でエアコンが稼働



生徒が注目する中、エアコンのスイッチを入れる福島市長

市が平成30年から進めてきた、市内全部の小中学校（8小学校、5中学校）へのエアコン設置工事が今年3月までに完了し、6月3日、各学校が稼働を始めました。

エアコンが設置されたのは、全小中学校の普通教室と保健室、給食調理室など計144室で、夏場の児童生徒の熱中症予防対策に役立てられます。

木造中学校で行われた稼働式では、福島市長が3学年の3クラスを回ってエアコンのスイッチを入れ「暑さに負けずに勉強がんばってください。来年の3月には全員が志望校に合格できるよう祈っています」と生徒らを激励しました。

生徒らは「快適な環境を整えてくれてありがとうございます」「受験勉強がんばります」などと感謝の言葉を述べていました。

地元企業が市内の中学校野球部を応援

6月10日、株式会社葛西商事（葛西一郎代表取締役）と青森銀行が市教育委員会に軟式野球ボール15ダースを寄贈しました。

寄贈品は、葛西商事が2月に発行した「あおぎんSDGs私募債『未来の創造』」で青森銀行が受け取る手数料の一部で購入したもので、市内5中学校に3ダースずつ配られます。

この私募債は、寄贈オプション付きの私募債で、発行時に手数料の一部を寄付金として出し、発行する企業が寄贈先と寄贈品を指定します。今回は、葛西代表取締役が野球好きであることが縁で、市内の中学校野球部にボールを贈ることになりました。葛西教育長は「大事に使わせていただく。場外にボールを飛ばすような選手が育ってほしい」と話していました。



贈呈式に出席した（左から）葛西商事の村田進専務取締役、葛西教育長、青森銀行の伊藤嘉将木造支店長

市連合婦人会が父の日訪問



福島市長、倉光副市長、葛西教育長に花をプレゼントする連合婦人会の尾野会長ら

つがる市連合婦人会（尾野洋子会長）は6月12日、父の日を前に福島市長らを表敬訪問し、花とエコバックを贈りました。

この取り組みは、市民の父親代表として福島市長らに感謝と慰労の意を伝えようと毎年行われているものです。今年は花に加え、7月1日から全国一斉スタートするレジ袋の有料化を受け、同会が制作したエコバックも贈呈。会長は「環境に優しい運動は私たちがやるべきだと感じていました。市民の環境に対する意識向上に繋がってくれば」と手渡すと、福島市長は「毎年ありがとうございます。皆さんの活躍をPRしたいと思います」と話していました。このエコバックは、7月1日に市役所等で配布されるほか、会員らが日ごろから持ち歩くなど普及啓発に活用されます。

「おいしくな～れ！」児童がリンゴの実すぐり体験

6月24日、森田小学校（平山和仁校長）の児童が、リンゴの実すぐり（摘果）作業を体験しました。この取り組みは、農作業を通じて地域に愛着を持ってもらおうと、森田小が農業法人アップルファミリーの協力を得て毎年実施しているものです。

この日は、5年生24人が園地を訪れ、同社の宮西洋年さんから実の選び方などを教わりながら、不要な実を丁寧に摘み取っていました。参加した原田愛唯佳さんは「小さい実を取るののはかわいそうだったけど、大きなリンゴを作るために大事な作業だと分かりました。大きくおいしくな～れ！と体験を振り返りました。

児童が実すぐりしたリンゴには、自分の名前を書いた印をつけ、秋に収穫体験を行う予定です。



リンゴの実すぐりをする森田小の児童たち